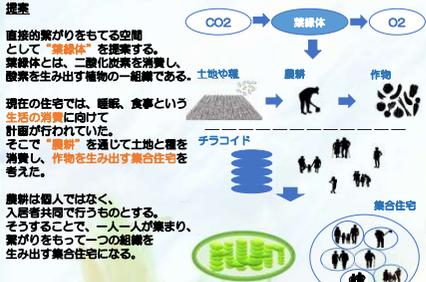
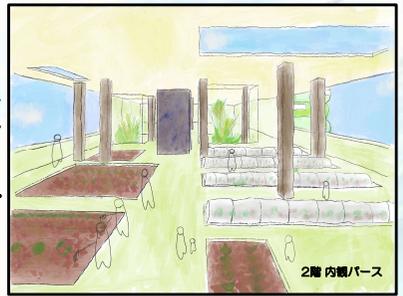


濃耕

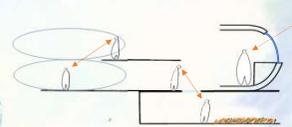
～ 植物に生きる暮らし～



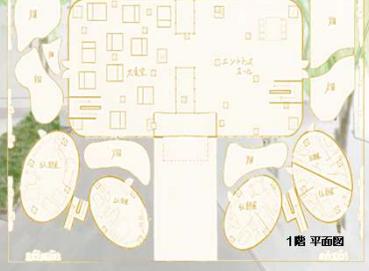
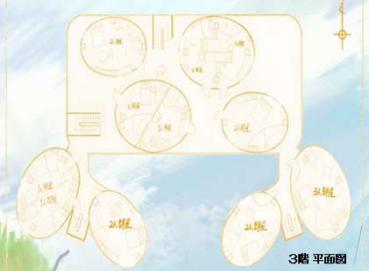
1階大食堂エリア。西側から見た図。前面がガラス張りで見渡せ、木の温かみを感じられる居心地の良い空間となっている。



2階農耕エリア。西側から見た図。外部空間との視線・空間的繋がりを意識した。半ピロティ型にして静寂を兼ねないことで、外部と内部の差があまりない。



住戸と廊下、上下階の廊下、2階と3階がそれぞれ視線が通るようになっている。



課題背景1

狩猟採集時代、人々は生命活動の維持のため、薪を持ち、木の葉を覆ったり、火を囲んだりと呼んで行動を共にしていた。このころ、人間には**直接的な繋がりが**存在した。

ここでいう**狩猟採集**とは、人類学上の意味で野生の動物物の狩猟と採集を生活の基盤とする社会のこととする。

課題背景2

間接的な繋がりが広がり始めたことで、簡単にコミュニケーションがとれるようになった。が、その一方で様々な課題も増えてきた。外出の機会が減ることで、隣に当たる時間が少なくなり、精神疾患を含む様々な健康被害を引き起こす。また、集団でこそ味わえる**心の豊か**がなくなり、孤独な社会が形成された。そこで、**人と人が自然に降りる空間を創造し、直接的な繋がりを再構築**することが必要なのではないかと考える。

直接的ではなく間接的な繋がりが増える

心の豊かになくなり健康被害にも繋がる

人と自然に降りる空間を創造し、直接的な繋がりを再構築する！

住戸のテラコイド

平面、断面共に曲線を描くことで、四角い住戸よりも隙間ができ、**採光と視線の両方を通す**ことができる。また、自然な繋がりを創出するために、2階まで自然光が届くようにすることで、建物の下部部分で農耕することが可能になった。

1階大食堂

1階で、敷内で育った作物を自らで調理・実食できる。1テーブルのキャパシティが6～7名であるから、協力したり、テーブルごとでの食比べが期待できる。

2階農耕エリア

上下階の視線が通り、緑が豊かでリラックス効果が望める**農耕場**となっている。畑は共同の土地で、コミュニケーションをとりつつ別の畑との距離感を認めることで、**様々な距離感のコミュニティ**が形成される。

地域との繋が

建物周辺で農耕ができることにより、**小学校の体験授業**にも使えることができる。更には住民が地主となるので、住民と子どもたちとの**繋がりが**できる。また、作った作物は食す以外にも**神社へ奉納し**、五穀豊穡を祈る神事を行える。